

「幼時期と小学校との教育的な接続」に向けて

「新幼稚園教育要領」

【5 小学校教育との接続に当たっての留意事項】

- (1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。
- (2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

- (1) について
- ①幼稚園や保育園の取り組み、小学校1年生の取り組みを出し合い、理解し合うところから始める。
*保幼小の学びの一体化の中に私立の保幼も参加する。
 - ②生活力や育ちの連続性の観点から共通の水準や目標を定め、自校・園の取り組みを見直し、改善を図る。
 - ③地域ごとの共通の水準や目標を四日市市全体として集約し、四日市市としての共通の水準や目標を定めるよう目指していく。

《例》<生活面の接続の具体的な項目>

- ①箸指導：個別に把握し、家庭にも協力を依頼し、共同して取り組んでいる。正しい持ち方を伝え、個別に適宜声掛けをしている。また、箸に慣れるための遊び（豆つかみ競争など）も随時行っている。年少時から全身を使った遊びを充実させるとともに、手指の細かい操作へつなげる遊びも組み入れながら手指のしなやかな動きを目指している。
- ②掃除（美化）指導：食前は、当番活動としてレストランのテーブルを雑巾がけする。食後は、机を拭き、机の周りを掃く。雑巾も洗って絞れるように、ほうきやちりとりを正しく使えるようにする。掃除道具も所定の場所に片づける。
また、学期末には大掃除を行う。下駄箱の掃除、部屋の床の雑巾がけもする。
- ③朝の会・帰りの会：当番の子が司会をして進行する。クラスによってほぼ流れは決まっているが、その時点の課題や目的によって変化する。子ども同士で声をかけ合う参加型で進めている。みんなで歌をうたったり、一日の流れを知る。さらに、みんなに伝えたいことなど話し合う場面も設けている。また、帰りの会では、支度で忘れていないか確認もしている。最終的な到達目標は以下の通りである。小中での自主運営や自治の力の伸長につなげて行ければと考えている。
 - ・自分の考えや思いを他者に伝えられる。
 - ・仲間の思いや考えを聞いて受け止め、理解する。
 - ・場面や状況に応じて、それまでの経験を生かした対応を考え、提案できる。
- ④係活動：全員が分担して以下の活動を交替で行っている。朝の会や帰りの会の司会進行、レストランの準備片づけと挨拶、野菜の水やり、生き物の世話。最終的な到達目標は以下の通りである。
 - ・クラスの一員としての自覚を高める（仲間意識、共同生活、自己有用感）。
 - ・すべきことをすべき時にする（責任感）。

- (2) について
- ①「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の内容を幼児期の教員だけでなく、小学校の教員への理解を図る。
 - ②それぞれの内容について、生活や遊びの中でどのように取り組み、伸ばしているのかを幼児教育の教員が整理し、小学校の教員に伝えてより理解を深める。
 - ③それぞれの項目が小学校の生活の中でどのように生かされ、伸びて来ているのかを小学校の教員が整理し、幼児教育の教員に伝え、学びや育ちの連続性を確認し合う。また、その中で両者の取り組みとして強化すべきことや改善すべきことを確かめ、改めて行く。

《例》<幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿>

凧を作って凧揚げで遊んだ。始めは先生に教えてもらった作り方で作り、園庭で走りながら揚げてみた。もっと大きな紙で作った方が揚がるのではと思い、作り直した。友だちが、「足をもっと長い紙にした方がいいんじゃない」と言ってくれたので、足も変えてみた。それを持って園庭に出てみると、築山から駆け下りて揚げていた子がいたので駆け下りてみた。凧がくるくる回って揚がらないのを見ていた友だちが、「凧を持ってあげよ」と言って持ってくれたので、紐を持って走ったら少しふわっとした。先生が「風に向かって走ると揚がるんじゃない」と言ってくれたので、反対向きに走ったらもっと高く飛んだ。

(1) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(4) 言葉による伝え合い

経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(5) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。